

学級集団は仲良し集団ではなく、高め合い集団であるということが再確認できました。

授業の中で途方に暮れる生徒をそのままにしないという言葉。いつも気を付けていることですが、それがとても難しく感じています。手立てがしっかりできる授業を創りたいです。

生徒の学習感。勉強は自分事の意識。

授業で成功体験を積ませることが更なる学びの意欲の向上、自己有用感を高めることにつながると思いました。また、準備が全てだと思いました。ありがとうございました。

教師集団づくりからはじまる授業づくり。お互いが信頼し合うことの大切さ。形から入らない。どんなマップをつくるのか。挑戦していくことからの学び。生徒の成長意欲を信じる。目指す生徒像の共通理解。できないはあるが、お互いを高め合うことの素晴らしさとそれを体験する中での成功体験の場を設ける。(集団感) 小学校から同じ方向を。

英語の指導要領の中でも「やりとり」という言葉が入ってきています。さまざまな仲間とやりとりをすることで高め合い、伸びていくのだということを継続的にしていきたいと思えます。

形から入らない。(原理が大事)
成功体験。(完璧でなくていい)

高いレベルを求める、追求する大切さ。完全習得学習。挑戦することの大切さ。

生徒が意図せず成功してしまうための手がかりを散りばめておくこと。前時までの学習の跡などを、授業、教室、ノート、ファイル、いろいろなところに残して生徒が自分の学びを振り返る習慣をつけたいと思いました。学びは我が事であるという生徒の姿を引き出したいと思いました。

新しい学校づくりは教師集団づくりが原点であり、相互信頼が大切だということ。ただ崖から突き落とすのではなく、上がってこれる手立て、しくみを準備すること。

生徒の「学習感」を教員が理解(把握)する事が大切だと感じた。そして、それと同時に、実態を把握し、生徒の成長意欲を信じ切り、目標をしっかりと示し、納得させた上で、教育、指導にあたらなければいけないと感じました。あと、実際に生徒に「観察係」をさせるというアイデアがよかったです。ありがとうございました。

ワークシートをより充実させたいと思う。特に本時の手順が分かるような形をつくってきたい。「安心して大きな声が出せる」協同的なクラスを目指したいと感じた。

「発表をする」のではなく、「仲間にしっかり伝えましょう」と表現することからでも生徒の意識は変わっていくこと。生徒の学習感はどうなのか考えておくこと。勉強を我が事と捉えられる生徒に育てることの大切さを感じた。新中学校に向けて、何が必要なのか。まずは教員集団の信頼関係。型から入らない。生徒の成長意欲を信じる。目指す生徒像を明確に決めておくこと等、たくさん参考になりました。

形から入らない。生徒が自分で動けるマップを持たせること。生徒の成長したいという気持ちを感じた。教師の方が頑張らなければならない。「目指す生徒像」をしっかりつくる。

「成功するには職員集団」という言葉。

学力低位の生徒が学習に参加できる方法を常に考えておられ、とても参考になりました。

杉江先生の指導講評から学んだことは？

